

トマト黄化病の収量への影響と 現地における有効な防除対策

背景

トマト黄化病は、収量への影響、現地での発生動向及び有効な防除方法が不明でした。

成果の内容

生育初期に感染し重症化した場合に収量が減少することを明らかにするとともに、本病に有効な防除方法を確立しました。

生育初期に感染し重症化※1した場合、小玉化し収量は減少します。

桃太郎ホープ(令和5年2~6月調査)

かれん(令和6年5~7月調査)

	重症株率	果実数(個/株)	果実重(g/個)	収量(kg/株)		重症株率	果実数(個/株)	果実重(g/個)	収量(kg/株)
苗接種区	67%	8.1 (99%)	220.7** (69%)	1.78** (69%)	苗接種区	100%	9.5 (90%)	156.3** (80%)	1.49** (72%)
健全区	-	8.2	318.9	2.60	健全区	-	10.6	196.5	2.06

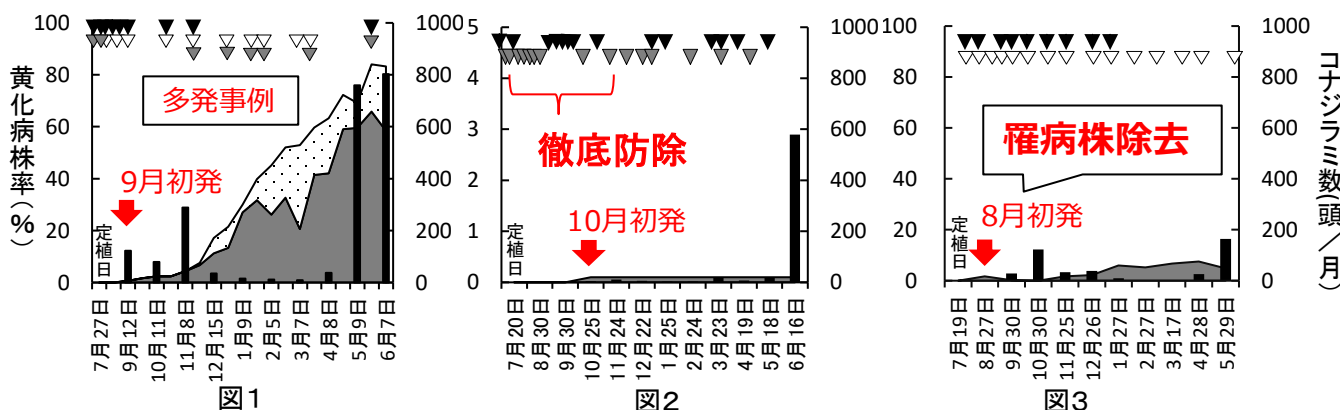
※1)重症化とは、地上部の半分以上が黄化した状態を示し、「重症株率」は、最も重症化が進んだ時の株率を示す。

※2) **: Studentのt検定(1%水準)で有意差あり。 ※3) ()内は健全区比を示す。

現地での発生動向に基づく有効な防除対策

- 年内に初発し、コナジラミ類も多いと翌春に多発生する傾向(図1)。
- 定植約3か月後までのコナジラミ類の徹底防除や罹病株の除去により感染拡大を抑制できる(図2, 3)。

▼: 化学剤(コナジラミ対象剤)、▽: 忌避剤、▽: 気門封鎖剤の散布日(8月以前の防除は省略)
■: 黄化病株率 □: 黄化葉巻病と黄化病の混合感染株率 ■: コナジラミ数



※定植日の黄化病株率およびコナジラミ数は未調査。

【研究チームのコメント】

○トマト黄化病の防除の参考としていただければ幸いです。
(病害虫チーム)

